

内閣総理大臣 菅義偉 様
経済産業大臣 梶山弘志 様

トリチウム汚染水の海洋放出を行わないことを求める

2021年4月13日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

代表世話人会

菅首相らは、4月7日、全漁連会長、福島県漁連会長らと官邸で面会し、東京電力福島第一原発事故で発生した汚染水について、汚染水を人体に影響がないレベルまで薄めて徐々に海洋放出する方針を示した。そして、本日、関係閣僚会議を開催し、その放出を決定したと報道された。

私たちは、こうした汚染水の海洋放出をすすめることに強く抗議するものである。

東電福島第一原発では、原子炉の冷却水や地下水が建屋に流れ込み、放射性物質を含んだ水が日々発生し続けている。政府はトリチウム汚染水を敷地内に設置したタンクに保管してきたが、タンクを増設する敷地が足りず満杯になることを理由に放出の方針を打ち出してきている。しかし、周辺には利用できる土地が広がっており、東電がタンク増設の方針も出しており、海洋放出する理由は希薄である。

地元の漁業者をはじめ多くの福島県民は汚染水の海洋放出に反対か慎重な対応を求めている。福島県内においても、県議会をはじめ県内市町村の7割を超える市町村議会で反対や慎重な対応を求める意見書や決議が採択されている。地元住民の意見を踏みにじる方針は即刻撤回すべきである。

ALPS（多核種除去設備）で処理した汚染水にはトリチウムだけでなく、その他の放射性物質が残存していることも指摘されている。もし、汚染水が海に流されるならば、本格操業をめざし、移行期間に移った福島県の漁業に壊滅的な打撃を与え、これまでの努力が水泡に帰すことになる。

以上をふまえ、私たちは命と健康を守る医師・歯科医師の立場から、トリチウム汚染水の海洋放出は絶対に行わないこと、当面、陸上保管を継続し、国内外の英知を結集して解決をはかることを求めるものである。

以上